

公益社団法人私立大学情報教育協会
平成28年度第5回情報教育研究合同委員会議事記録
情報教育研究委員会
情報リテラシー・情報倫理分科会
分野別情報教育分科会

I. 日時：平成29年1月31日（火） 18:00～20:00

II. 場所：アルカディア市ヶ谷 6階貴船

III. 参加者：斎藤委員長、西垣委員、笈ア^ダバ^バイ^イ、大原ア^ダバ^バイ^イ、玉田主査、和田委員、
和田委員、金子委員、児島主査、阿部栄委員、大谷委員、角田委員、武藤ア^ダバ^バイ^イ、
(Skype)中西委員、本村委員、渡辺ア^ダバ^バイ^イ
事務局：井端事務局長、野本（記）

IV. 検討事項

委員から進め方として、29年前期の授業実践、評価方法の共通化、指導・テキスト案、実践研究の公募などが提案された。また、整理メモとして、カリキュラム・ディプロマポリシーとの整合性、パイロット授業の詳細設計、実験的な課外授業、既存リテラシーへの組み込み、3～5コマの授業設計、教材開発、教育指導方法、評価方法のガイドライン作成の課題が提示された。今後の進め方について以下のような意見があった。

- ・ 4月から一部の大学で授業実践したものを9月の戦略大会で発表してはどうか。
- ・ 3月までに、教材開発、指導方法、評価方法などの基本方針を考えておく必要がある。また、プログラミングなどの指導ができる教材が必要ではないか。
- ・ 訴求のためには、文科省の学士力を基本として、戦略大会で発表した「はじめに」の部分を利用して問題解決力の必要性を訴えかける必要がある。
- ・ 来年度授業からの実施については、3ポリシーの検討が進んでおり、シラバスも固まっている中で、今から来年度の対応を大学に進めるのは困難ではないか。
- ・ 例えば、情報の基礎的な授業や初年次ゼミなどで3回分の組み入れが考えられないか。しかし、教育した成果の実績のないものは授業に取り入れられないとの意見があった。
- ・ 情報系の学科がないとできないのか、大学の事情・水準を考慮して、簡略化、エントリーレベルのバージョンを提案する必要があるのではないか。
- ・ 4～6年間で身に付けば良いことから、3～4回授業を初年次で体験し、専門教育で実践することも考えられるのではないか。例えば、情報系がある場合は15回の中で行う、初年次と専門教育との組み合わせ形式のモデルなどが考えられないか。
- ・ 3～5回の授業を想定したモジュールを数種類準備できないか。また、アクティブ・ラーニングとして考えるなど、文系、理系での例が考えられないか。
- ・ シラバスに組み込む取り組みとして、9月以降にはFDに関わる説明会を開催する必要があるのではないか。

次回は、分野別に授業の設計例を持ち寄り、具体的な提案例から今後の進め方について検討を行うことにした。

V. 今後のスケジュール

- ・ 次回は、2月6日に合同委員会を開催し、
- ・ 玉田主査には、指導方法、教材開発の方法について、啓蒙ビデオ作製など対策を検討願うことにし、児島主査、角田委員、金子委員、本村委員には、問題発見・解決思考授業の進め方を大学で実施を想定した詳細設計の案を作成することにした。また、中西委員・和田委員には、プログラミング、モデリング、シミュレーションを問題発見・解決授業にどのように組み込むかの案を検討いただくことにしている。